

# 所有者×利用者

今回は、実際に制度を活用して物件を登録した坂本公子さん（所有者）と、物件を借りたいと希望していた村上くるみさん（利用者）に話を聞くことができました。



▲まるで親子のように仲が良い坂本さんと村上さん

▼坂本さんのお父さんがいつも本を読んでいたという縁側。



## 決め手は人柄の良さと物件の雰囲気

**「田舎暮らし」に憧れて移住**  
移住前は、熊本市内に住んでいましたが、「田舎暮らし」と「古風な家」に憧れて、空き家バンクを利用しました。  
坂本さんの人柄の良さと、物件の雰囲気がとても好きで、すぐに決めました。  
住み始めてからも、地域の人が私を快く受け入れてくださり、困った時には、頼れる人がたくさんいて、とても居心地がよいです。  
公園など遊ぶところもあり、高速道路や新幹線も近く、アクセスがいいので、家族で移住するなら、とても便利だと思います。  
でも、移住していちばんよかったと思ったことは、水と食べ物がとてもおいしいことです。長く和歌山に住みたいと思っています。



利用者  
村上 くるみさん

## 思い出の詰まった家が生き返った

**管理が行き届かないことが悩みでした**  
元々この家は両親が住んでいた家で、定期的に管理をしていましたが、なかなか管理が行き届かないところもあり、大変でした。ここにいい人が住んでくれると、周りの雰囲気も良くなるので、なにかいい方法はないかと考えていた時に空き家バンクのことを知り登録しました。  
ただ、受け入れ体制を整えるのが大変で、登録時は補助金がないので、家財の撤去や改修にお金がかかり、登録するまでに時間とお金がかかりました。今は補助金制度ができていたので皆さんとても助かると思います。  
地域にもなじんでもらえて、とてもいい人に移住してもらえたと思います。思い出の詰まった家も生き返り、とても安心しています。



所有者  
坂本 公子さん